

第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会重要事項通知（選手必読）

2016年11月15日
全日本FT大会
実行委員長 盛島一盛

クラブ長、選抜選手およびセコンドの皆様は、かならず一読して下さい。

目 次

- 一、選手集合（計量）時間
- 二、選手が持参するもの（重要）
- 二、組手選抜選手の各種防具の色
- 四、就武型（個人戦）選抜選手の鉢巻の色
- 五、集合時の手順
- 六、後樂園ホール入館時
- 七、その他注意

記

一、選手集合（計量）時間

1、選手集合時間 午後2時00分 （時間厳守。遅刻者は理由を問わず失格とします）

*少年部演武者は午後3時30分に後樂園ホール入口に集合

2、集合場所（JTA総会場所）

アジア青少年センター・9階 国際会議室

東京都千代田区猿樂町2-5-5 03-3233-0611

選抜選手の出欠、組手出場選手の計量等を行います。駐車場はありません。

二、選手が持参するもの

1、自己のJTA黒帯道衣

全日本FT大会選抜選手は、自己のJTA黒帯道衣を着用（中古不可）しなければなりません

ただし、高校生、中学生、小学生の選抜選手は、色帯道衣での参加を認めます。

例外 2回戦以降に使用するため、自己の所有する道衣の他に、他のJTA会員から黒帯道衣の貸与を受けても構いません。

2、自己の黒帯

- 1) 全日本F T大会は有段者の大会です。黒帯を着用しなければなりません。
ただし、昇段して間もない選抜選手の黒帯は、全日本大会迄、間に合いません。
該当者は、所属クラブの指導者・先輩等から黒帯を借りてください。

2) イサミ等のメーカー名の入った帯留めは禁止

写真撮影上、膨らみすぎて見栄えが悪いため。
代替処置として各自が黒いテープ（類似品可）を用意し、黒帯の結び目を固定してください。
なお、100円ショップ等で販売している安物は根着力に問題がありますので避けましょう。

3、自己所有の青または赤の手足防具

青または赤の自己所有の防具を持参してください。
(青防具を所有している選手が赤防具を所有している選手とシェア協定を結ぶことは認めます)。
青または赤の自己が所有する防具のない選手の全日本F T大会参加は認めません。
両色とも他者から貸与を受け或いは中古品で全日本F T大会に参加したことが後日発覚した場合、
試合成績はすべて無効となります。

4、自己所有の胴防具

J T Aオリジナルの胴防具（青・赤のリバーシブル）に限ります。
自己の胴防具を所有し、貸与届け出を提出している地方クラブ選手のみJ T A本部が準備します。

5、マウスピース

組手選手は、安全上、マウスピースを着用してください。
マウスピースの色は透明に限ります。それ以外の色は認めません。

6、組手選手男子ファールカップ

付け忘れは失格です。黒帯道衣の中に着用して下さい。外に着用していた場合は失格です。

7、組手選手の白い軍手と爪の事前処理

拳の握りが甘いと顔面突きの際、指（とくに親指）が相手選手の目に突き刺さることがあります。
最悪の場合、相手選手が失明します。

よって白い軍手（古くて変色した軍手は禁止）を着用した後、手の防具を着用して下さい。
なお、2回戦以降に使用するため軍手を複数用意することを勧めます。

同様の理由により指の爪は、男女を問わず必ず短く切っておくように。

8、スネサポーター着用は少年少女部以外は任意

- 1) 色は白に限ります。それ以外の着用は失格となります。
- 2) スネサポーター、肘サポーター等を使用する場合、下記の計量時に司会者に届け出て下さい。
上記のサポーターを使用する場合、蹴りがその分重くなりますので、選手の体重に加重し、
体重判定の際の勝敗基準とします。

9、飲料水と塩

リング上はライトにより観客席よりも温度が高く、運動量及び緊張等で水分が必要となります。
セコンドは、選手の試合前、試合後、延長戦前の休憩時に安全上、必ず水分を補給させて下さい。
がぶ飲みは危険です（JTA本部HP参照）。
塩または塩分補給の雨を持参し、水分と共に補給して下さい。

10、セコンドのチケット

選手本人は必要ありませんが、セコンドは必要です。
セコンドは開場するまで後楽園ホールに入場することはできません。
セコンドがチケットを忘れた場合、再度、後楽園ホールで購入して下さい。
例外は一切認めません。なお、当日券は3500円です。

11、健康保険証の現物

- 1、万一の事故や大怪我が生じた場合、最寄りの救急指定大学病院等へ搬送します。
その際、健康保険証の現物が必要です。
- 2、救急車手配の窓口は後楽園ホールです。各自が行うと到着が遅れます。
- 3、各クラブは救急車搬送の際の付き添いを決めて下さい。親や兄弟でも構いません。

三、組手選抜選手の各種防具の色

組手防具は主催者側は準備しません。所属クラブ等で用意して下さい。
選手呼び出し時点で準備できていない場合、失格となります。

パンフレットで対戦表を確認後、3試合前迄、「リング通路」と「コート通路」に待機して下さい。
リング責任者、コート責任者に選手名を告げ 待機準備していることを伝えてください。
各責任者からリング司会またはコート司会へのスタンバイ通知が滞ると試合進行に支障が生じます

司会から最初に呼び出しを受ける選手が青コーナーとなり、青い防具を着用しなければなりません。
ヘッドギアや胴防具の色も手足防具と同じです。個人又は各クラブで準備してください。

防具（着用）の色とコーナーは同じです。例）青+赤→1回戦を青防具、2回戦は赤防具

セコンドはすでに発表されている対戦表を確認し、
自選手が2回戦以降の対戦相手より上段に表記されているかを確認して下さい。

対戦表の上段は青、下段は赤です。

四、蹴武の型（個人戦）選抜選手の鉢巻の色

型の選手に対し、青または赤の鉢巻を黒帯の後方にかけるようにします。J T A本部が用意します。

司会から最初に呼び出しを受ける選手が青コーナーとなり、青い鉢巻をかけなければなりません。

セコンドは対戦表で自選手が2回戦以降の対戦相手より上段に表記されているかを確認して下さい。
上段にあれば青の鉢巻、下段であれば赤の鉢巻です。

試合終了後、コート責任者に返却して下さい。

五、集合時の手順

1、午後2時に、アジア青少年センター・9階国際会議室において出欠確認をします。

出欠は選手本人に限ります。
いかなる事情があろうとも欠席した場合は
失格となります。
例外は認めません。

毎年、会場入り口が混雑します。

本年度より13時30分以降の9階国際会議室へ移動してください。

総会会場への入室を認めます。静粛に待機して下さい。

- 2、組手選手は、私服のまま体重計にのり、申告体重との増減を確認します。
スネサポーター、肘サポーター等を使用する場合、
計量時にメモ書き（様式随意。氏名とサポーター種類を記したもの）等を提出してください。
- 3、選手には受付時にパンフレット1部配布します（無料）

4、アジア青少年センター・9階国際会議室選手において道衣等に着替えることも可能です。

六、後楽園ホール入館時

1、設営時に入館できるのは、選抜選手、実行委員・役員、演武者です。

セコンドおよび少年少女部の保護者は入館できません。

後楽園ホール担当者の管理のもとチケットで入館して下さい。

2、各自が選手控え室で道衣等に着替えて下さい。

1) 女子・少女部は、チャンピオンルーム奥の部屋を使用して下さい。

2) 男子（演武者含む）は、上記以外の選手ルームを使用して下さい。

注意 大会専門の窃盗団がいる可能性もあります（17年前のITF時代に盗難有り）。

貴重品、スマホ等は絶対置かないようにして下さい。

万一、盗難にあってもJTAおよび関係者、東京ドーム・後楽園ホールは責任を負いません。

3、リハーサルまで各自がウォーミングアップをして下さい。

荷物運搬や設営等を手伝う必要はありません。試合に集中して下さい。

4、組手試合のリング・ロープ調整完了次第、リングにのぼって練習しても結構です。

型試合のコートで型の練習をしても結構です。

5、セコンド

私服は一切禁止します。セコンドとしてふさわしい服装を心がけて下さい。

OB・OG、休会者は、セコンドにふさわしくありません。禁止します。

七、その他注意

1、開会式・試合・閉会式等、道衣の上や中にシャツ等を着ることを禁止します。

ただし、女子選手は白のシャツに限り着用を認めます。

2、開会式・閉会式リング上での私語は控えて下さい。終始沈黙・起立。

3、通路でのミット蹴り等は、禁止します。

選手控え室からリング上にのぼる際の地下階段のスペースのみ許可します。

4、ウォーミングアップの際、通行者（とくに子供）に注意して下さい。 死亡事故につながります。

5、貴重品はロッカーにおかないようにし、セコンド等に預けて下さい。

盗難にあっても主催者側は一切関知しません。

6、敗戦後、選手控え室等でOB等と世間話などせず、試合を観戦・応援するようにして下さい。
自分の試合を観戦・応援してもらっているのであれば、自分が負けた後であっても、
他の選手の試合を観戦するのがスジであり、それがJTA七大精神の礼儀礼節です。

7、通路側での私語を禁じます。声が響き会場全体に拡がるからです。
大会スタッフから注意を受けた者は、その場で退場させます。試合は棄権となります。
とくにベテラン選手は気を付けて下さい。

8、コンタクトの使用制限

格闘技は視力が弱くても競技が可能です。

また、コンタクトを使用しての格闘技は、目に負担がかかり危険です。

普段の練習時にコンタクトをはずし、馴れておくことが大切です。

審判は、コンタクトの着用のは非は確認しませんが、

仮に、コンタクトを落としたり、ずれたりしても、試合は中断しません。弁償もしません。

当該動作をした時点で主審は失格を宣言します。

注意 柔道や剣道の全日本大会でそのような光景は殆どあり得ません。

後楽園ホールリング上でそのような行為を行い失笑を買わないように注意しましょう。

9、道衣の中にタイツ等を着用することは禁止します。

本大会は、蹴りを主体とする格闘技の試合です。

写真撮影上、道衣の中のタイツ等は、組手および型の蹴りの動作時に写ってしまい見栄えが悪く、
また美しくありません。

ただし、膝までの長さのタイツ等は写りにくいので白に限り着用を認めます。

10、道着の下着のひも

黒帯道義のひもが長いため、のびてしまい写真撮影の際、見栄えが悪くなります。

かといって、きつくしめるとトイレ等ではずすのに時間がかかってしまいます。

チョウチョ結びを2回行う（宗師範結び）と、のびることもなく、ほどくことも楽にできます。